

環境教育「まず、今できることから」

子どもゆめ基金(独立行政法人国立青少年教育振興機構)助成活動

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 高橋 賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市浅川町三丁目5番地7
(浅川福祉センター内)
TEL0561-51-2878



2010/10/11

田んぼの体験
名都西院と
中島の学生が
注視して見守り
を体験する。

「ハサ」かけ
する生徒
反響
手迷いおれ
もチヤウラク
本島人間
教育で
出来るのだ。

平成22年10月11日(月)
食の環境塾(体育の日)
田舎くらしの体験が
いっしょに楽しんだ田んぼの
米づくり
自然の恵みに感謝。

六月四日(金)に稲穂を
しまし。一匹から四匹稲を
刈り取るのがお米ましまし。
収穫の秋をいっしょに楽しませ
鎌を使って稲刈りした稲は所
で短く切り分け(稲を干す台)
に干して天日干し。



2010/10/11

人間教育・環境教育出来るはず。

大変が初めて
の経験
指導者も緊張が
頭の中を走る
考え行動
米作りはしなやかな
もよみ米づくり
ます。
人に頼らず自分達
で考え行動する
自主の精神を育む。



2010/10/11

刈り取った稲を
雑草が混ざらない
ように除く作業と
稲をしまし。ハサ
にまき班に分けて
仕分け作業に集中
米作り大盛り上がり
楽しそう。
一匹の米が二匹は入
切にしまし。米の干
入りに体はしめん
でもかた。
十日間を干してか
らお米の寒さを
十一月には皆んぞで
食べる。
こんなお米はしんど
が稲益の中を実行
されているのです。



2010/10/11

子ども一人ひとりが稲を仕分する。



2010/10/11